

2019年7月4日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第180回 景気動向調査（4～6月期）

- ☆景況感悪化・・・売上DI 4.3ポイント下落
- ☆高い設備投資意欲・・・製造業「実施中・予定あり」24.0%
- ☆収益直撃・・・「仕入上昇」46.3%、「人手不足」41.6%
- ☆やめられない、下げられない夏季賞与・・・「支給する」2.8ポイント上昇

●景況感悪化・・・売上DI△4.3ポイント下落

総合では、売上DI+0.8（前回比△4.3ポイント）、収益DI-1.8（前回比△3.9ポイント）となり、売上DI、収益DIともに大きく下落しました。売上DIは、運輸業で前回比△14.0ポイント、製造業で△5.1ポイントと特に大きく下落しています。7～9月期は、総合で売上DIが1.9ポイント、収益DIが1.1ポイントともにさらに下落すると予想しています。また、10月から予定される消費税率引き上げ前の駆け込み需要も少なく、中小企業の景況感はすでに悪化していると思われまます。

●高い設備投資意欲・・・製造業「実施中・予定あり」24.0%

設備投資は、総合では「実施中」7.3%（前回比△0.7ポイント）、「予定あり」11.4%（前回比+1.8ポイント）、合計18.7%となり、前回から1.1ポイント上昇しました。

特に製造業では「実施中」10.9%（前回比△1.1ポイント）、「予定あり」13.1%（前回比+2.9ポイント）となり合計24.0%となり、「予定あり」が上昇しています。

平成30年度補正予算「ものづくり補助金」の1次公募の採択が決定し、まもなく2次公募が始まり、補助金の公募が設備投資意欲を支える一つの大きな要因と思われまます。

●収益直撃・・・「仕入単価上昇」46.3%「人手不足」41.6%

経営上の問題点は、総合では「仕入単価の上昇」が46.3%、「人手不足」が41.6%、「売上受注の停滞・減少」が39.9%となりました。4月からの物価の上昇、中東情勢の緊迫による原油価格高騰への不安、人手確保のための夏季賞与の増額などのコスト増が、収益に悪影響を及ぼしています。10月から予定される消費税率の引き上げが、景気の悪化に追い打ちをかけることが懸念されます。

●やめられない、下げられない夏季賞与・・・「支給する」+2.8ポイント上昇

夏季賞与の支給状況について、「支給する」が65.4%（昨年比+2.8ポイント）となりました。従業員数が10人以下の小規模企業でも支給する企業の割合が増加しています。この背景には、人手不足の深刻化していることがあります。特に、「支給する」は運輸業で72.2%（昨年比+6ポイント）、製造業で71.0%（昨年比+0.8ポイント）、卸売業で70.4%（昨年比+4.3ポイント）となりました。景況感が失速するなかでも、夏季賞与の支給はやめられず、また支給額も上昇し、固定費の増加が大きな負担となることが懸念されます。

調査時点：2019年6月上旬

対象期間：2019年4～6月（実績） 2019年7～9月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,763社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,481社（回答率84.0%）

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL: (06) 6775-6590 FAX: (06) 6772-1630

E-mail: souken@osaka-shinkin.co.jp URL: http://www.osaka-shinkin.co.jp